

RapidILLが 実現する シェアリングコ ミュニティ

スピードとシンプルさ、
そして節約を追求した
リソース共有システム



図書館員による図書館員のためにデザインされたRapidILLは、
図書館間相互貸出の合理化と自動化、所要時間の短縮、さらに
コスト削減を実現します。

相互貸借のコミュニティを中心に構築されるユニークなリソースシェ
アリングシステムとして、RapidILLは、95%の優れたリクエスト達成
率と、デジタルアセットの平均12時間以内のデリバリータイムを誇り
ます。これは、RapidILLコミュニティに参加するすべての機関が、
24時間以内のデリバリーとILL処理の無料化に合意したことにより
実現したものです。RapidILLの革新的なツール、ワークフロー、そ
してテクノロジーは、参加するすべての図書館の相互貸借作業を
シームレスで透明性が高いものにし、コスト削減につなげます。

図書館間相互貸借(ILL) が直面する課題

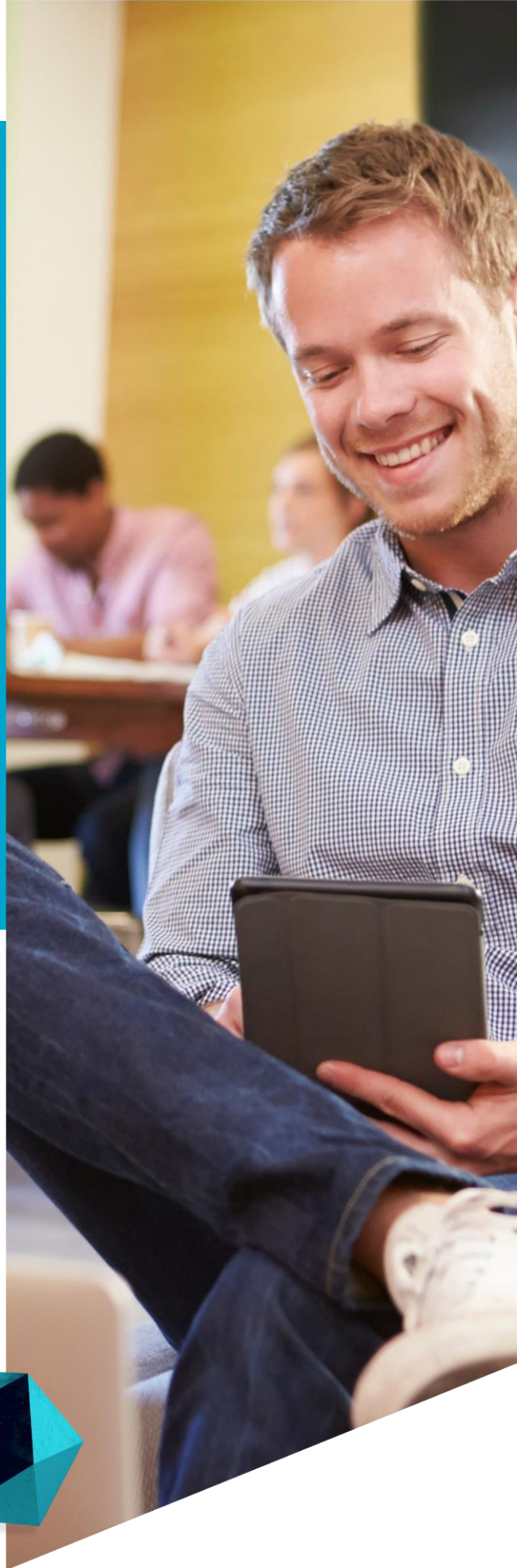
必要な資料すべてを購入できる図書館は存在しませんが、1960年以降、リソースシェアリングの考え方がこの課題解決の鍵となってきました。電子化の加速により、利用者や研究者が、ローカル、国内、さらに国際的に価値のある情報を、みずから特定できるようになった現在、この重要性は増しています。

世界的な予算削減、書架スペース、職員数などの課題を抱えながら、図書館はさらに複雑化する図書館業務に対応し続けなければなりません。リクエスト資料の確認と資料の依頼方法の特定を含めて、図書館員は利用者のリクエストに応えるための複数の作業に膨大な時間を費やしています。そのためには、リクエストされた資料を所蔵する可能性のある地元の図書館を探し、貸し手の図書館の方針や価格を確認する必要があります。多くの場合、貸し手である所蔵館がどの程度迅速に要求を満たすことができるか判断できる情報すらないため、利用者にとってはサービスが複雑になり、そのタイムラインについても不確実なものとなっています。

リソースシェアリングという革命

RapidILLはそれらの問題を、リソースシェアリングにおける静かな、しかし革命的な方法で解決します。

コロラド州立大学の図書館間相互貸借担当スタッフにより、図書館間相互貸借担当スタッフのために開発されたRapid ILLは、相互ユーザーで構成されるユニークなコミュニティを通して、迅速でシンプル、そして一元化されたリソースリクエストとデリバリーを提供します。デリバリーに要する時間を劇的に減らすと同時に、相互貸借に必要な作業をシームレスで透明性の高いものにし、コスト削減につなげます。



自動化と合理化

RapidILLの参加館は、24時間以内(月～金)に貸出依頼に対応すること、また高品質のスキャン資料を提供することなどのサービスに合意しています。実際には、RapidILLのデリバリー時間は平均12時間未満であり、RapidILLコミュニティに参加する前の図書館の一般的なケースに比べて大きな改善が見込めます。これは、ワークフローを合理化し、迅速なデリバリータイムと高品質のフルフィルメントを保証するRapidILLの特徴的な機能によるものです。

- RapidILLのオンボーディングの一環として、特にジャーナルを中心とした所蔵データベースを作成します。これにより、貸出担当者は自身の図書館が所有し、貸出可能な資料のリクエストのみを受け取ることになり、現在多くの図書館で費やしがちな、所有しない資料のILLリクエストの処理にかかる時間を大幅に削減できます。
- さらに貸し出し作業を簡単にするために、請求記号と配架場所情報をリクエストと一緒に自動送信することで、適切なリソースを簡単に取得できるようになっています。
- リクエストを出す利用者側にとってこのプロセスは、仲介作業を必要としない、完全に自動化されたプロセスです。RapidILLは、リクエストされた資料がリクエストした図書館にないこと、またオープンアクセスで利用できないことを瞬時に確認し、24時間以内に資料を提供できる最良の貸出し可能館を特定します。

RapidILLは毎月、各参加図書館の資料共有に関する統計(リクエストの提出数、受信数、処理時間など)を自動的に集計しています。統計データは、表やスプレッドシート形式で表示され、記事のタイトルレベルまでの詳細な情報の確認も可能です。また、他の参加図書館のシステム平均と比較して提供され、いつでも簡単にアクセスすることができます。



RapidILLシステムの基盤として、所蔵データベースは、ローカルでのドキュメントデリバリーに必要なローカルホールディングとのマッチングやボリュームレベルでの貸し出し館の特定など、効率的で正確なリクエスト処理に関する様々な作業をサポートします。

強化されたコラボレーション

RapidILLの参加館の間では、異なる図書館管理プラットフォームを使用している場合でも、一元的かつ標準化されたプロセスで、送信やリクエストの実行が簡単です。RapidILLのソリューションでは、雑誌論文の貸借において異なるILLツールを使用する場合の借り受け館と貸し出し館のギャップを埋めるために、電子でのデリバリーと受け取りを処理するRapidXというコンポーネント(追加費用なし)を含んでいます。

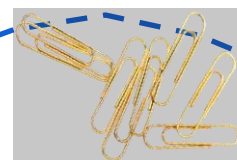
さらに、RapidILLのおかげで、初めて、相互に直接的な取り決めがない機関が、合意された条件でリソースを共有できるようになりました。そのため、図書館はより幅広く、より深く、これまで以上に質の高いコレクションを利用することができるようになります。

関連のある分野でつながる図書館のグループ(ポッド)によって、各図書館がパートナーと最も効果的に連携し、コンソーシアムやパートナーのリソース共有を強化することができます。また、図書館の蔵書がより多く公開され、peer-to-peerでの共有やドキュメントデリバリーがより広範囲に行われるようになります。

シームレスな統合

RapidILLは既存の図書館のワークフローとのシームレスな統合でILL管理システムを補強、裏側でリクエストを処理することが可能です。利用者は、リクエスト資料をより早く受け取ることができ、しかも使い慣れた貸出・返却管理システム(ILLiad、Tipasa、RelaisILL、CLIO、Almaなど)を利用することができます。

また、RapidILLは図書館員にとっても操作がわかりやすく容易に使いこなすことが可能です。加えて、オンボーディングのプロセスにおいて、現在使用しているILLツールに手を加えて、ホールドファイルを作成することで、迅速かつシームレスなワークフローを実現します。





図書館のコストを削減する

RapidILLによる作業の自動化と合理化、また統合により、リソースシェアリングがこれまで以上に効率的になり、図書館のコスト削減にもつながります。

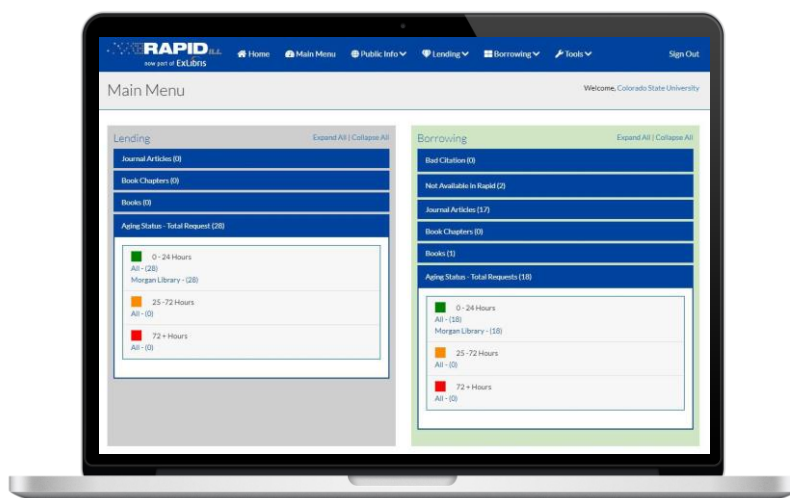
コスト削減の多くは、スタッフの勤務時間やリソースで測定することが可能です。RapidILLのワークフローは借り受け館側で自動化できるため、利用者のリクエストは提携図書館に転送して対応し、その後、スタッフの管理なしに利用者に届けことが可能です。リクエストされた資料の著作権処理が完了した後、例えば、無媒介の借用では、借り受けするためにスタッフがさらに介入する必要はありません。これにより、図書館職員は、教員や学生の支援、館内コレクションの構築など、より付加価値の高い複雑な業務に自由に取り組むことができます。

また、RapidILLの図書館ネットワーク内では取引手数料がかからず、相互請求のシステムであっても費用がかからないため、さらなるコスト削減が実現します。

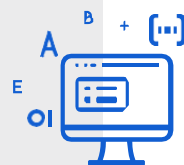
RapidILLコミュニティについて

革新的な技術やインフラと並んで、RapidILLのユーザーコミュニティがこのソリューションの成功の中核をなしています。参加館はリソースシェアリングのリクエストに対して迅速かつ質の高い対応をすることを相互に約束しており、すべてのRapidILLパートナーとその利用者のモチベーションと利益を高めています。図書館員は自分がそうしているように、コミュニティに参加する他館の同僚が借用依頼を優先していることを理解しているからです。また同時に、貸し出し館は、RapidILLへのリクエストは自館が保有するリソースのみであり、リクエストされたアセットは貸し出し可能で、リクエストの場所を特定し対応するために必要な情報はすべてRapidILLから既に提供されていると確信することができます。

RapidILLは、コレクションを共有する図書館コミュニティを新しいグローバルマーケットに拡大し、Idea ExchangeやDeveloper NetworkなどのEx Librisのエンゲージメントプラットフォームを通じて新しい顧客とのつながりを構築しています。また、急速に拡大するRapidILLコミュニティは、多様なダイナミックなユーザーにより、RapidILLの製品およびサービスの改善の源ともなっているのです。



成功を支える技術



リソースシェアリングネットワークにおいて、利用者に資料を迅速かつ効率的に提供する能力を高めるには、革新的なツール、ワークフロー、そしてテクノロジーが必要です。



スマートリクエスト -

独自のアルゴリズムで負荷平準化を図り、タイムゾーンを認識させています。



自動化プロセス -

ワークフローソフトウェアは、図書館間リソースシェアリングのニーズに応えるために特別に設計されています。



比類のないインデクシング -

所蔵データベースは、雑誌のリクエストをボリュームレベルまでマッチングします。



すべての必要な情報 -

迅速な貸し借りのために特に必要な情報は、データベースで管理されています。



自発的エクスポージャー -

共有データベースにより、貸し出し館は貸し出し用のローカルコレクションの包括的な記録を維持しながら、相互貸借可能なリソースのみを簡単に公開することができます。



完全な互換性 -

RapidILLのソリューションは、すべての主要なILLプロトコルおよびソフトウェアパッケージ（CLIO、ILLiad、RelaisILL、Tipasaなど）と容易に統合でき、ISOおよびAPIの相互作用を使用して追加のオプションを提供します。



一貫性と整合性 -

異なるILLプラットフォームを利用する図書館間でも、RapidXによりシームレスな雑誌論文の電子デリバリーと受け取りが可能です。

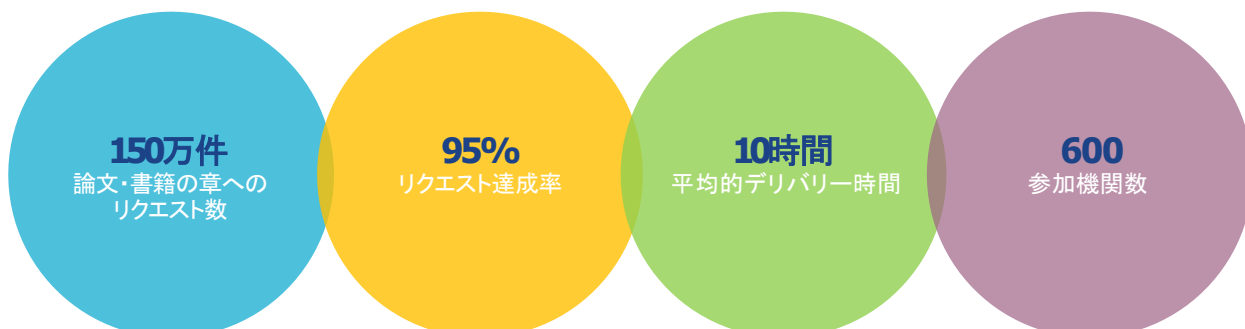


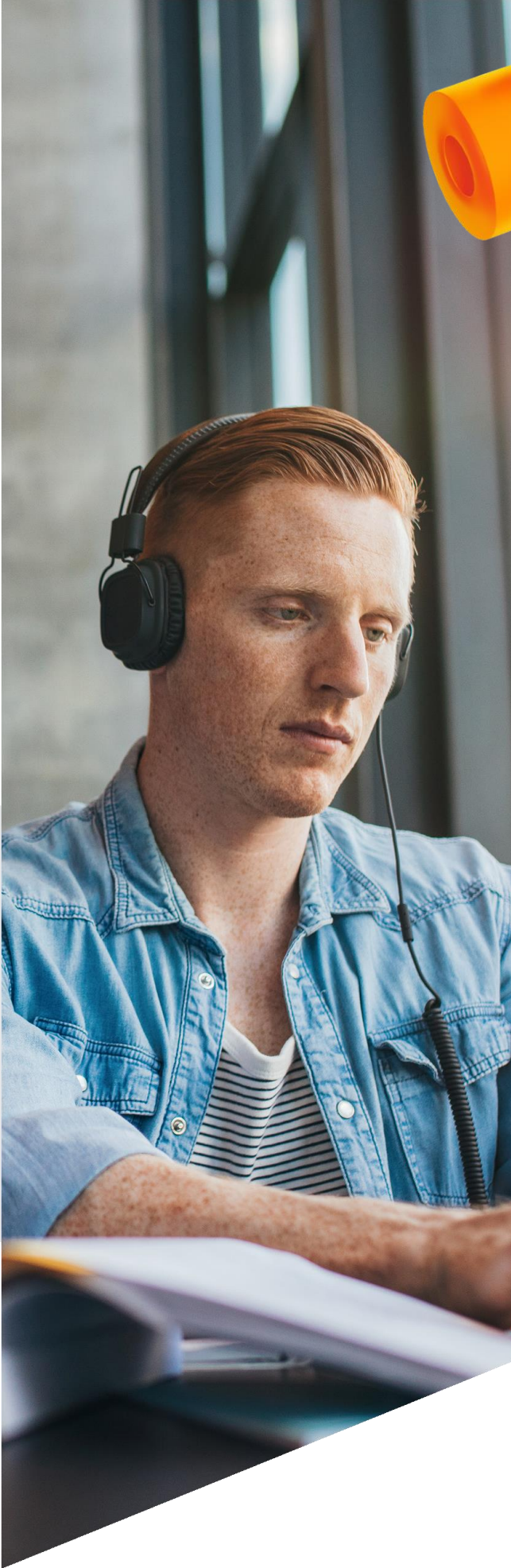
カスタマーサービス -

業界をリードするサポートとEx Librisのインフラにより、すべての図書館が最高レベルの生産性を維持することができます。

RapidILLのグローバルなインパクト

RapidILLコミュニティに参加することは、世界の図書館とともに学術的なリソースシェアリングの最前線に在ることを意味します。RapidILLとEx Librisの技術とインフラに支えられたこの共同作業は、デジタル時代の需要に応えるために、図書館間相互貸出の簡素化と自動化を実現するものです。図書館のリソースシェアリングへの依存度が高まるなか、RapidILLは、グローバル化が進むコミュニティのどこにいても利用者に情報を届けるという使命を果たすための鍵になります。





「過去30年間のテクノロジーの進化を見てきて、Rapidは、リソースシェアリングにおいて最も独創的で先見性のあるイノベーションを生み出してきたと断言できます。」

Alison Roe O'Grady
ILLスーパーバイザー
ウィリアムズ大学図書館

Ex Librisについて

Clarivateの子会社であるEx Librisは、高等教育機関向けにクラウドベースのソリューションを提供する世界的なリーディングカンパニーです。Ex Librisは、お客様や幅広いコミュニティとの密接な協力のもと、図書館の生産性を高め、研究活動の効果を最大化し、教育と学習を強化し、学生のモバイル活用を促進するソリューションを開発しています。90カ国で7,500以上の顧客にサービスを提供しています。詳細については、当社の[Webサイト](#)を参照し、[LinkedIn](#)、[YouTube](#)、[Facebook](#)、および[Twitter](#)に参加ください。

この資料についてのお問い合わせは下記までご連絡下さい。

Ex Libris, Part of Clarivate
Email: pq-sales-japan@clarivate.com